

番号	1	平成26年度公共事業事後評価調書			担当課名[道路整備課]				
事業名	道路改築事業			事業主体	静岡県				
箇所名	一般国道473号 <small>じぞうとうげ</small> 地蔵峠バイパス			市町村名	島田市				
事業概要									
事業期間	当初	平成13年度～平成20年度		事業費	当初	1,360百万円			
	実績	平成13年度～平成21年度			実績	1,409百万円			
事業量	当初延長：320m（Ⅰ期工区） 実績延長：320m（Ⅰ期工区） 道路幅員：車道幅員6.0m（全幅7.50m）完成2車線								
事業の目的・必要性									
<p>本路線は、愛知県蒲郡市を起点とし静岡県牧之原市に至る延長150kmの幹線道路である。事業区間は島田市街地と川根地区を結ぶ区間であり、生活、産業面において重要な役割を果たしている。また、第1次緊急輸送路と重要な拠点を結ぶ道路である第2次緊急輸送路に指定されており、防災面においても重要な区間である。</p> <p>この区間は山地部であり、狭隘区間や屈曲した区間が点在している。本事業は、2橋の橋梁を新設し、道路幅員を2車線へ拡幅することにより安全で円滑な交通を確保し、地域の道路ネットワークの強化を図るものである。</p>									
事業の効果等									
費用対効果 分析結果	当初	B/C	総費用	10.93	億円	総便益	17.28	億円	基準年
		1.58	（事業費：10.31億円 維持管理費：0.62億円）		（走行時間短縮便益：16.29億円 走行経費減少便益：0.89億円 交通事故減少便益：0.10億円）		平成13年		
	事後	B/C	総費用	18.85	億円	総便益	29.23	億円	基準年
		1.55	（事業費：18.72億円 維持管理費：0.13億円）		（走行時間短縮便益：23.59億円 走行経費減少便益：4.98億円 交通事故減少便益：0.66億円）		平成26年		
<p>(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 便益算定の原単位が減少。（費用便益分析マニュアルの改訂（H20）） ・ 当初の費用対効果分析結果は、平成13年を基準年として平成21年から40年間の便益を算定しているのに対し、事後評価の費用対効果分析結果は、平成26年を基準年として平成22年から50年間の便益を算定している。（費用便益分析マニュアルの改訂（H20）） <p>(2) 事業効果の発現状況</p> <p>【通行の安全性・円滑性の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すれ違い困難な狭隘区間及び屈曲部の解消により、安全で円滑な通行が可能となった。 <p>【緊急輸送路の連絡強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本地域には、第2次救急医療施設である島田市民病院や、防災拠点港湾である御前崎港及び発災時には広域医療搬送拠点となる富士山静岡空港があり、本路線はこれら施設と川根地区を連結する重要な路線となっている。本事業により幅員が確保され、道路法面の安全性が向上したことにより、緊急輸送路の強化が図られた。 ・ 道路ネットワークのリダンダンシーや、国道1号及び新東名へのアクセス機能が向上した。 <p>【広域観光・交流の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新東名高速道路・島田金谷ICが開通したことにより、川根本町の観光交流客数が増加に転じており、本路線もアクセス道路として利用されている。観光を主要産業とする奥大井地域の振興が図られ、本路線の整備が地域の発展と交流の促進に寄与したものと考えている。 									

事業実施による環境の変化

【沿道の環境変化】

道路整備による走行速度の向上で、下記の通り窒素酸化物(NOx)、二酸化炭素(CO2)および浮遊粒子状物質(SPM)の排出量の削減が想定される。

- ・ NOx削減量： 630.4t-NOx/年 ⇒ 629.7t-NOx/年 (0.7 t/年 (約0.1%) 削減)
- ・ CO2削減量： 260.4t-CO2/年 ⇒ 260.1t-CO2/年 (0.3 t/年 (約 0.3%) 削減)
- ・ SPM削減量： 36.00t-SPM/年 ⇒ 35.97t-SPM/年 (0.03 t/年 (約0.1%) 削減)

『2005道路政策評価通達集』の算定式より

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・ 新東名高速道路（御殿場JCT～三ヶ日JCT間）が平成24年4月に開通
新東名高速道路・島田金谷ICの開通により、国道473号奥大井方面への広域的なアクセス利便性が高まり、観光を主要産業とする奥大井地域の振興が期待される。
- ・ 南アルプスのエコパーク登録へ向けた動き
南アルプスは世界自然遺産登録及びユネスコエコパーク登録を目指す動きが行われてきた。この動きの中、本年6月、ユネスコ国際会議においてユネスコエコパークへの登録が決定された。

対応方針（案）

1 事業効果は十分発現しており、改善措置の必要はない

狭隘区間及び屈曲部が解消されたことにより、安全で円滑な通行が可能となった。B/Cについても1を上回っている。また、新東名高速道路・島田金谷ICからのアクセス道路としての機能は、本路線の整備の重要性をいっそう高めている。

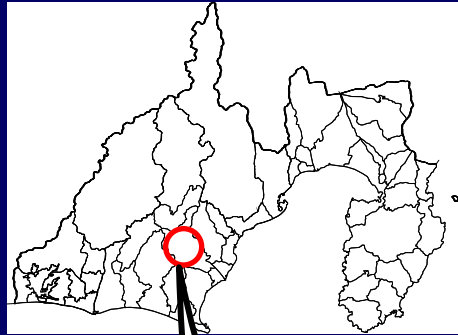
2 今後の課題・対応

引き続き、本事業区間に隣接する現在事業中の地蔵峠Ⅱバイパスの整備を進め、国道473号の幹線道路ネットワークとしての効果が発現されるよう努めていく。

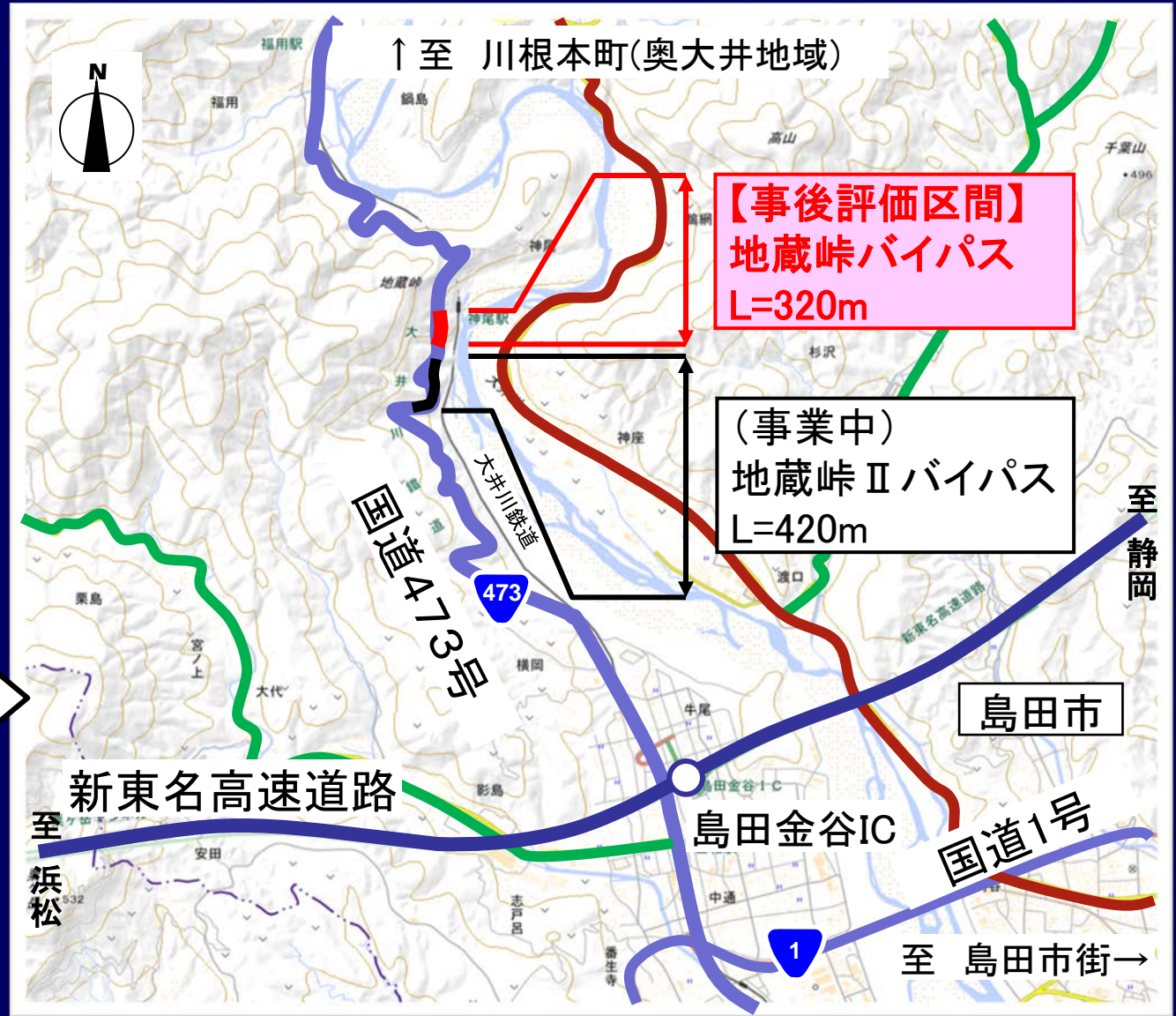
3 同種事業への反映等

本事業のような山間部の道路整備には、B/Cの他、「救急医療搬送の拡充」や「観光客の誘致」など、広域的な効果が存在するため、同種事業についても、これらの効果を把握しながら、広域的な道路整備に取り組んでいく。

1 対象路線及び事業の位置



(事後) — 道路—3



2 事業の概要及び目的

【事業概要】

事業期間：平成13年度～平成21年度

事業費：14.09億円

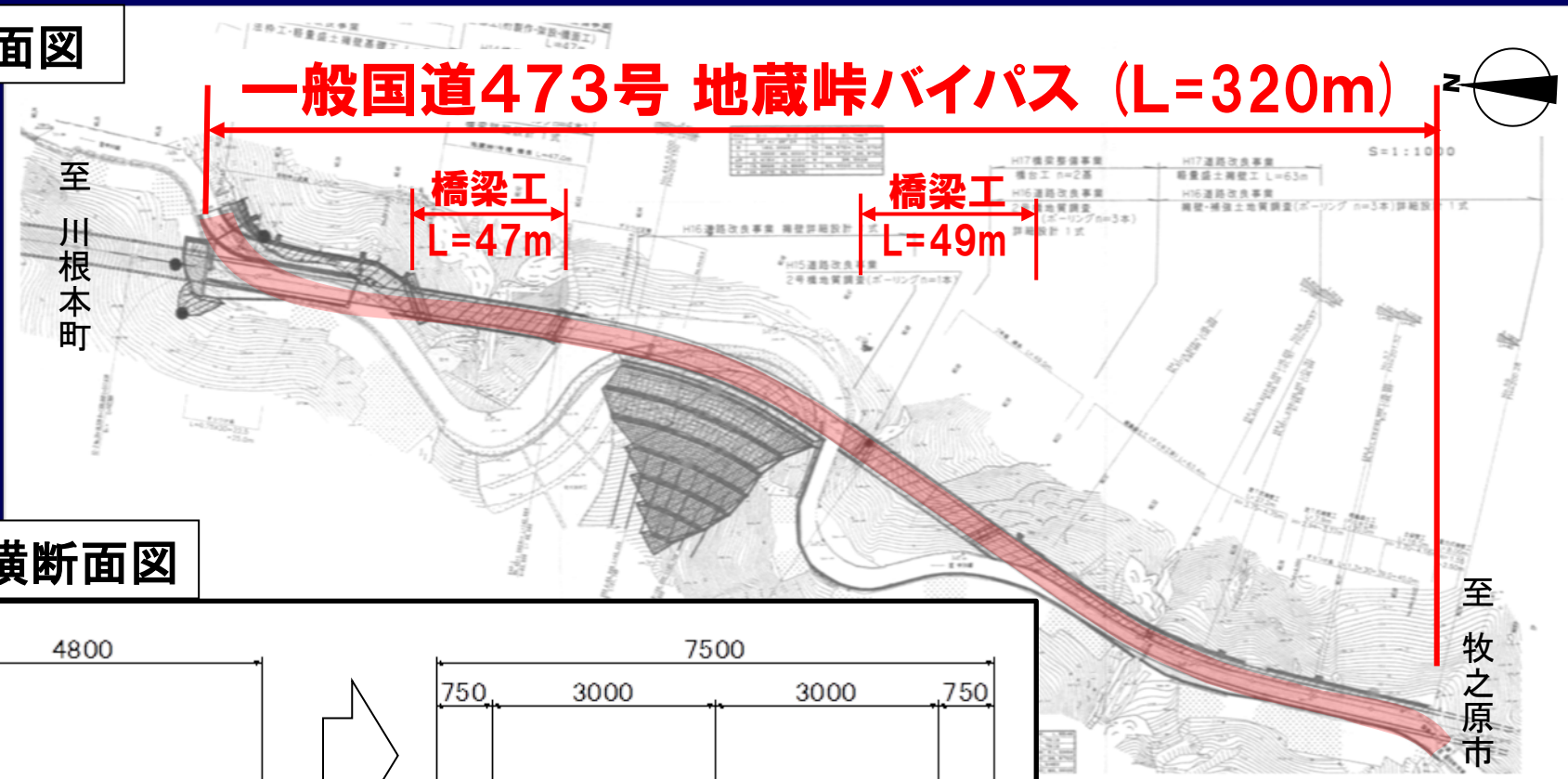
事業延長：320m

【事業目的】

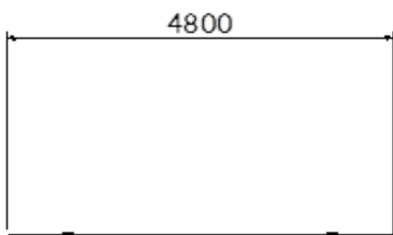
安全で円滑な交通を確保し
道路ネットワークの強化を図る

- ・幅員狭小箇所解消
- ・線形不良箇所解消

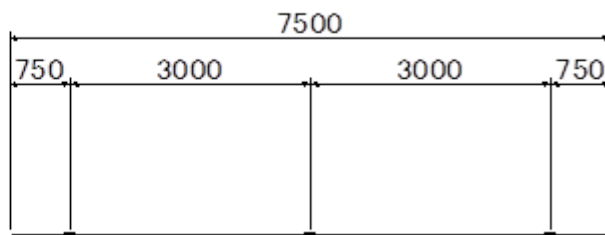
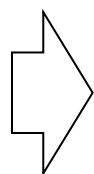
平面図



標準横断面図



<整備前>



<整備後>

3 事業の投資効果（費用対効果の検証）

総費用（C）	18.85億円（現在価値換算）
事業費	18.72億円
維持管理費	0.13億円

総便益（B）	29.23億円（現在価値換算）
走行時間短縮便益	23.59億円
走行経費減少便益	4.98億円
交通事故減少便益	0.66億円



費用対効果（B / C）	1.55
--------------	------

4 事業効果(安全で円滑な交通の確保)

＜整備前＞



①線形不良状況

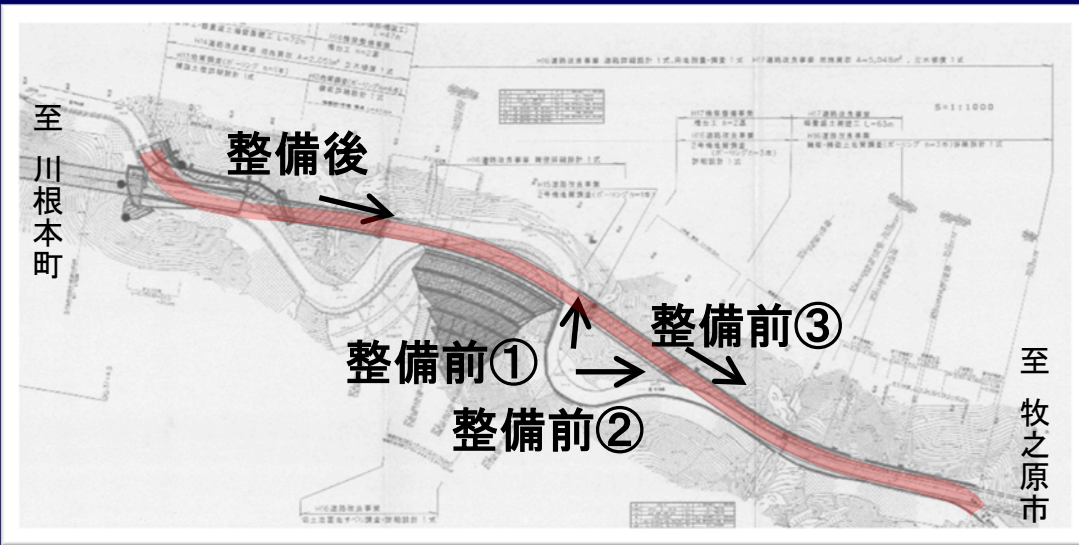


②線形不良状況



③すれ違い困難状況

＜整備後＞



安全で円滑な交通が確保された

4 事業効果(緊急輸送路の強化)

静岡県緊急輸送路図



- ・未改良区間の減少による緊急輸送路の強化
- ・リダンダンシーの向上
- ・国道1号や新東名へのアクセス機能向上

凡 例	
	1次緊急輸送路
	1次緊急輸送路(高規格道路)
	2次緊急輸送路
	3次緊急輸送路

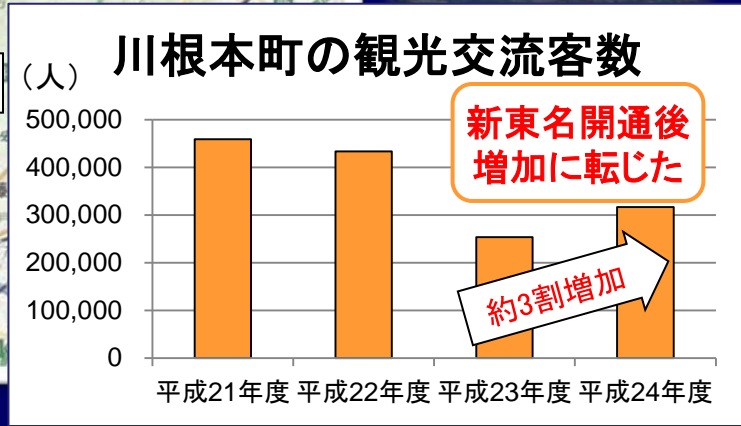
4 事業効果(広域観光・交流の促進)

(事後) 一道路-8

県民の森
関の沢鉄橋 ● **井川青少年自然の家**
夢の吊橋 ● **リバウエル井川**
寸又峡温泉 ● **接岨峡温泉**
長島ダム ● **音戯の郷** ● **もりのくに**
フォーレ ● **なかかわね茶茗館**
大井川鉄道 ● **川根温泉** ● **ふれあいの泉**
地蔵峠バイパス ● **島田金谷IC**
富士山静岡空港



**新東名の開通に伴う
国道473号の整備による
広域観光・交流の促進**

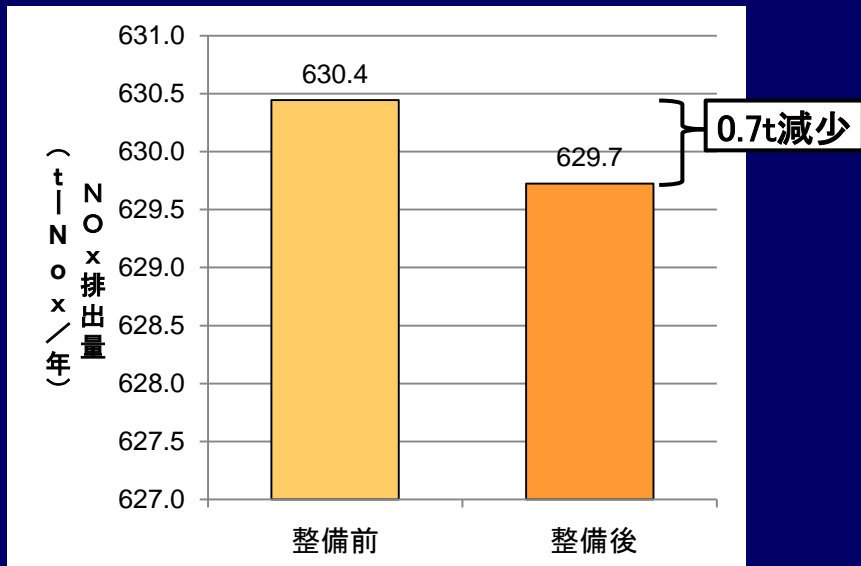


写真出典:「川根本町まちづくり観光協会HP」、県資料

資料:年度別観光交流客数の推移(県観光統計データ)

5 事業実施による環境の変化

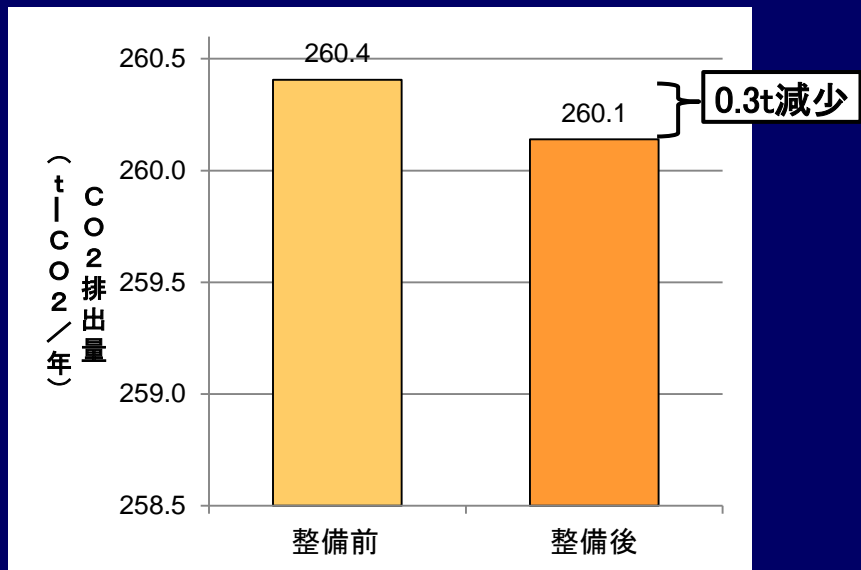
<NOx排出削減量>



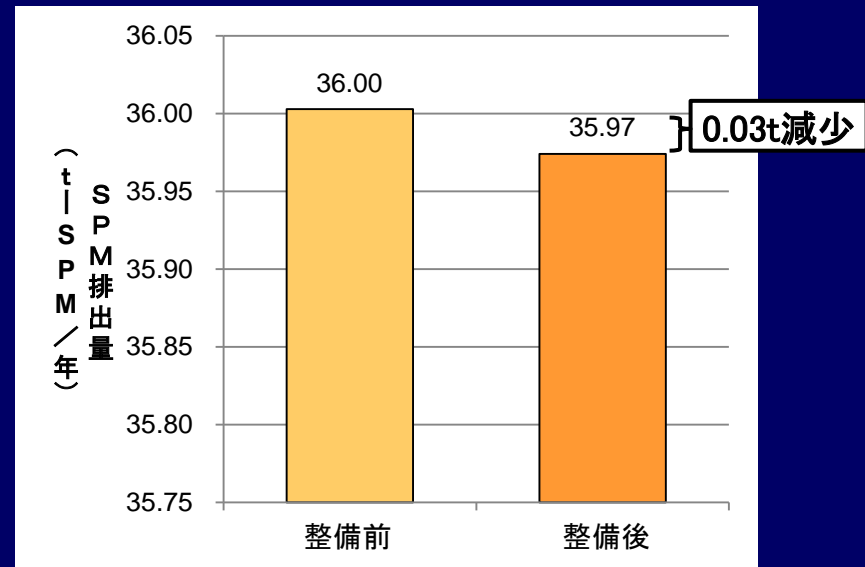
<現在の法面緑化状況>



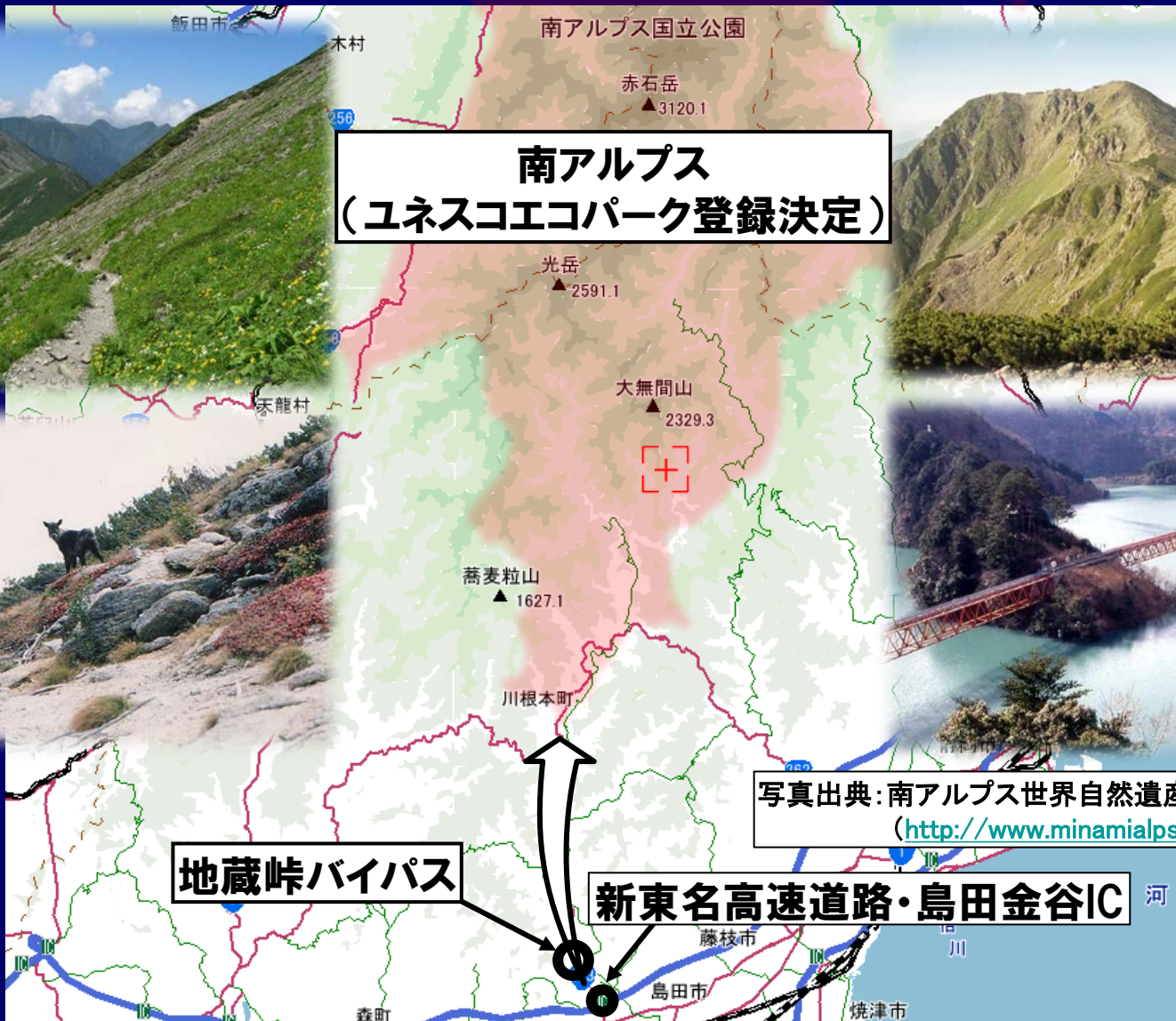
<CO2排出削減量>



<SPM排出削減量>



6 事業を巡る社会経済情勢等の変化

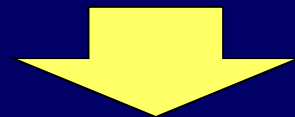


今後もアクセス道路としての利用が予想される

7 対応方針(案)

本事業により、

- ・安全で円滑な通行が可能となった。
- ・緊急輸送路の強化がなされた。
- ・広域観光・交流の促進がなされた。
- ・B/Cが「1.55」と「1」を上回っている。
- ・「新東名高速道路・島田金谷ICからのアクセス道路」としての機能は、本路線の整備の重要性をいっそう高めている。



事業効果は十分発現しており、改善措置の必要はない

7 対応方針(案)

●今後の課題・対応

引き続き、本事業区間に隣接する現在事業中の地蔵峠Ⅱバイパス(L=420m)の整備を進め、幹線道路ネットワークとしての効果が発現されるよう努めていく。

●同種事業への反映等

本事業のような山間部の道路整備には、B/Cの他、「救急医療搬送の拡充」や「観光客の誘致」など、広域的な効果が存在する。同種事業についても、これらの効果を把握しながら広域的な道路整備に取り組んでいく。